

令和 5年 2月 24日
中央図書館

区立図書館における新たなサービススポットの設置検討について

1 主旨

第2次世田谷区立図書館ビジョンの基本方針のひとつである「図書館ネットワークの構築」に基づき、図書館ネットワークの整備に取り組んできた。資料の予約や貸出・返却を中心としたサービスを行う図書館カウンターは、予定どおり広域生活・文化拠点（二子玉川、三軒茶屋、下北沢）3か所に設置を完了した。一方、令和2年度に開催した「世田谷区立図書館運営体制あり方検討委員会」の報告書では、利用者目線の新たな図書館サービスの導入として、新たな宅配サービスや、返却ポスト増設、自動返却機等の設備導入などの提案を受けており、また、新型コロナウイルス感染症への対応といった社会情勢の変化に対応した、非来館型サービスの充実を図る必要がある。

これらの状況を踏まえて、図書資料の貸出・返却に関する利用者サービス向上に向けた次の展開として、新たなサービススポット設置の検討を進めていく。

2 新たなサービススポットの概要

図書資料の貸出と返却の2種類の機器設置を検討する。

(1) 予約受取ロッカー型ブックボックスの設置（資料の貸出）

予約受取ロッカー型ブックボックスを設置することにより、図書館開館前の早朝や閉館後の深夜や、図書館以外の場所において、予約した図書資料を受け取ることができるようになり、周辺地域に居住している図書館利用者の利便性の向上を図ることができる。また、非対面・非接触での図書資料の受け取りが可能となり、新型コロナウイルス感染症対策としても有用である。

(2) 返却用ブックポストの設置（資料の返却）

図書館に設置されている図書資料の返却受付設備であるブックポストを、図書館から離れた場所に、予約受取ロッカー型ブックボックスと一体で設置することにより、図書館の開館状況とは関係なく図書資料を返却できる。

3 設置場所

駅の近くや駅構内など機器設置の効果が期待できる場所1カ所を設置場所として選定し、モデル的に機器を設置する。

4 運用

(1) 認証について

予約受取ロッカー型ブックボックスの機器は、利用者が図書館利用カード等をかざすことにより、図書資料を受け取ることができる仕組みが考えられるが、無人の機器であるこ

とを踏まえ、セキュリティを確保しつつ、かつ利用者が使いやすい認証方式とする。

(2) 運用委託について

ブックボックスへの図書資料のセットアップ、利用者が受け取りに来なかった場合の回収、利用者への連絡や問い合わせ対応、ロッカーの空き状況の確認、返却本の回収などの運用を行うために、委託事業者をプロポーザルで選定し、運用委託を行うことを想定している。

5 新たなサービススポットの評価

モデル的に設置する新たなサービススポットを、利用者数、コスト、利用者の満足度といった指標から評価・検証し、今後の利用者サービスの充実について検討していく。

6 概算経費（令和5年度）

約940万円（ランニングコストについては半年分で算出）

※機器本体経費（ハード保守経費含む）、運用委託経費、通信環境経費など

7 今後のスケジュール（予定）

令和5年 2月～ ブックボックス等設置の検討（継続）

令和5年 5月 文教常任委員会報告（検討結果について）

令和5年 5月～ 事業者選定プロポーザルの実施、設置場所の決定